年頭あいさつ

夢と希望の持てるまちづくり

神崎町長
石　橋　輝　一

新年あけましておめでとうございます。

さきの東日本大震災から1年9か月が過ぎ、町は生活に密着している改修工事を最優先にし、住民の生活・安全を第一と、取り組んでまいりました。お陰様で水道「神宿浄水場の古原地先への移転工事」を残すのみとなりました。町民皆様のご理解とご協力により、日常の生活も平常を取りもどしてきました。しかし、南海トラフ地震の発生も心配される日々であります。町は、これら防災に対し東日本大震災の教訓を活かし、公共施設の対応はもとより、防災対策として「神崎町防災マニュアル」を作成して全世帯に配布いたしました。今後も町民が一体となり生命の安全・安心の心がけを推進してまいります。

さて、本町は千葉県一小さな町でありますが、「発酵の里こうざき」をベースに、夢と希望の持てるまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。1月20日には全国発酵食品サミットが本町で開催され全国から多くの方々が来町されることになっております。発酵文化は古き良き時代の財産であり、近年では健康食として注目されメディア等でも紹介されています。町では伝統ある発酵文化を活かした新たな発酵文化を創造し、まちづくりを推進してまいりたいと思います。また、今年も3月17日㈰に第4回発酵の里こうざき酒蔵まつりが開催されます。町といたしましては本年も更に多くの方々に、ご来場を頂き神崎町を広く内外にアピールしてまいりたいと思っております。

今年は、特に一大事業として首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が急ピッチで工事が行われており、町は隣接地に道の駅の建設を進めております。この道の駅の建設については、平成25・26年度と2か年継続事業になりますが、用地の買収・造成、道路及び駐車場整備と道の駅建物本体の建設が進められることになっております。この道の駅は、神崎町にとって地域振興の発信基地として位置づけられ、酒蔵2軒を含め発酵の町こうざき、更に地場産品の育成と農業振興の発展につなげてまいりたいと考えております。また、この道の駅の位置づけとしては、県並びに成田国際空港の北の玄関口として、北総地域全体のランドマークとしても重要な働きをするものとなります。町の活性化は、そこに携わる多くの町民の皆さんの満足度が高ければ、この事業の成果が活かされるものと考えます。

その他、継続事業でありますが町道並木郡根岸線は、児童生徒の交通安全の推進を第一として進めており、当初計画より1年早く平成25年度中に完成する状況となりました。また、町道成田神崎線の整備でありますが、成田市・神崎町の共同事業として進めているところであります。両市町とも昨年度より地権者の協力を頂き用地買収に入り、事業は順調に進んでおり地域住民の念願であります地域道路は、着々と進められ早い完成が望まれるところであります。町は地元皆様の生活の安全・安心のため、今後とも全力で取り組んでまいります。

また、大きな社会問題であります福祉・教育でありますが、特に将来が危ぶまれるのが少子化対策です。子育てしやすい環境づくりが重要と、昨年度より取り組んだ学童保育の充実と保育所園児の給食費全額無料・小中学児童生徒の給食費半額補助等、保護者の負担軽減を図り子育て環境の整備を町独自事業として行っております。本年も引き続き中学生までの医療費無料化とともに実施します。

福祉についても独居老人及び高齢者等の緊急時の対策として、（仮称）安心カードを作成し日常の健康状態を記載したカードを、各自一定の場所に設置し緊急時